

二本松市議会

真誠会だより

2020.3月発行

発行者

真誠会

〒964-8601 二本松市金色403-1
TEL: 0243-55-5143

責任者 平塚與志一

令和2年度
一般会計予算
総額

344億4,359万7千円



市民が主役

いのち輝く二本松

市民とともに

本年は例年にもまして暖かい春を迎えております。二月に入り、新型コロナウイルスの猛威が世界中で拡散しており、本市においても学校の休校や各種行事の中止・延期など影響がでておりますが、このような時にこそ市民一丸となって感染症予防に努めて頂きまして安心な生活を一日でも早く取り戻して参りたいと願うところです。

さて、その様ななかでも霞ヶ城公園の桜はまもなく桜花繚乱に咲き乱れ市民の皆様の心が癒される季節となりました。

令和二年度の一般会計予算総額は三四四億四三五九万七千円となり、新年度の予算を決定する三月定例会もすべての議案が慎重審議のうえに可決承認されました。

本年度は新市総合計画の五年目であり最終年度を迎えることから、四つの基本目標である、「子供や若者の未来を創るまち」「郷土愛にあふれ活力と賑わいのあるまち」「いつまでも元気で生きがいのもてるまち」「助け合い支え合い安全に安心して暮らせるまち」の目標達成に向けて私ども「真誠会」は一丸となり市民皆様方と共に鋭意努力してまいります。

新規事業として、民間が新たに整備する保育施設及び認定こども園の整備費助成・七十五歳以上の高齢者及び免許返納者を対象としたタクシー運賃の助成・就労準備支援事業予算・安達地方特別支援学校敷地造成関連経費・東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック関連事業・令和元年台風第十九号による災害復旧関連経費等が措置されました。

また、主な事業として人口減少対策事業や出産祝金支給事業・二本松駅南地区整備事業・杉田駅周辺整備事業・安達駅西地区整備事業・市民との協働による地域づくり推進事業・繁盛店づくり支援事業・温泉地観光施設整備事業・二本松城跡総合整備事業等が予算措置されました。

五年・十年は基より五十年・百年先を見据え「持続可能な自立した自治体」に向け市民の皆様と共に活力に満ちた豊かで賑わいのある二本松市実現のため、今後ともより一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

真誠会代表質問



真誠会会長 平塚與志一
産業建設常任委員
議会運営副委員長
安達地方広域議会議員
二本松市錦町二二二五
電話〇二四三二二二二一九七

問 平成十七年十二月に新二本松市が誕生してから早いもので十四年が経過いたしました。東日本大震災から九年が過ぎようとしております。
長期総合計画とは、本市が行うすべての政策、施策、事業の根拠となる最上位の行政計画であり、平成二十八年度から令和二年まで五年間、市政の新しい指針となります。新二本松総合計画「二本松を元気に！新五ヶ年プラン」を策定いたしました。残り期間が一年となりました。
令和二年度は、新総合計画の最終年度となります。計画に掲げております、基本目標「子どもや若者の未来を創るまち」、「郷土愛にあふれ活力と賑わいのあるまち」、「助け合い、支え合い、安全に安心して暮らせるまち」の実現に向け、現計画の総仕上げとして、進めておりますか。どのようになつていきますか。
「子どもや若者の未来を創るまち」では、概ね目標達成が見込まれる状況です。
「郷土愛にあふれ活力と賑わいのあるまち」では、観光客やI・J・Uターンは、目標を達成しております。新規創業、就農はあと一歩という状況であります。
「助け合い、支え合い、安全に安心して暮らせるまち」では、医療福祉、安全安心なまちづくり、ごみの排出、交通事故抑制の達成率は、八〇％です。
次期総合計画の策定方法であります。今年度において、市内の策定検討委員会を立ち上げておりまして、九月に市民の皆様アンケート調査を致し、基礎調査を行い、現行計画の総括を行い、次期計画のたたき台を作成する事といたしております。また振興計画審議会への諮問、パブリックコメントを行います。また次期計画は、十年間を目標に策定したいと考えております。
幼稚園と保育園を併設させる事はできないか。
既存の保育所に幼稚園機能を持たせたり、既存の幼稚園に保育所機能を持たせることは、可能であり、これが、認定こども園となり、子育て支援センターの設置が必要になります。
再生可能エネルギーについて、現在は、どのようになつておりますか、今後の進め方はどのようになつておりますか。
「二本松ご当地エネルギーをみんなで考える株式会社」通称「ゴチカン」の取り組み状況ですが、本年度はFIT認定を受けた八十八箇所うち、発電効率が高く、より収益が見込める施設について建設を進め、一月十五日にはゴチカンの太陽光発電初号機として、錦町地内に野立型太陽光発電が完成し、FIT制度に基づく売電を開始しております。

ゴチカンでは、東和地域において、営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）二基の建設も進めており、今年度内には完成し売電を開始する予定です。
（仮称）二本松電力の事業計画と収支計画が策定され、事業に公共性が認められれば、市としても出資を検討していくこととしております。
また、再生可能エネルギーの理解促進事業についても継続し、多くの市民の皆様に参加いただきながら、事業を進じてまいりたいと考えております。

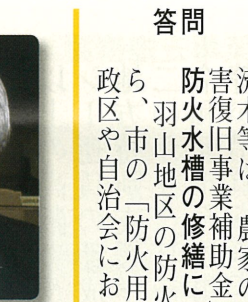
一般質問



真誠会副会長 佐久間好夫
総務市民常任委員会
議会運営委員
市議会だより編集委員会
二本松市太田字鷹巣二一五
電話〇二四三二四七二一三六〇六

問 詐欺等の防犯対策について
二本松警察署で一〇〇万円の被害一件と被害額はなかったが、カードすり替え被害一件、予兆電話四十七件、ハガキ四十三件、メール十六件が確認されております。
東和児童保育通所交通安全対策は
小学生が東和支所まで通所しており、国道三四九号線脇の歩道を利用してガードフェンス設置要望書を保護者会長と共に提出した。
岩代杉内地区の仮設住宅跡地の利用について
人工芝サッカーコート、トイレ、駐車場を整備し、子供から大人まで幅広い世代に活用していただく。
コミュニティバス利用状況について
高齢者の公共交通運賃無料化事業により、一般乗車人数は平成三十二年四月から令和元年七月までで、四〇五四人前年比三十七％の増となり、今後普及を図って参ります。
県道舗装修繕及び県道沿い立木伐採と除草について
太田若宮地区の舗装については、県に現地確認をお願いする。路肩や法面は立木伐採や除草は、県で業者委託して年二回実施している。市としては、県道の局部改良や側溝整備等、安全確保優先に速やかに要望・依頼したいと考えています。
仮設減容化施設の稼働について
昨年四月に試運転し、六月から本格稼働している。運搬についてもほぼ計画通り進捗している。不具合が発生時は早急に対応する体制はとっている。
台風十九号による被害の早期復旧について
公共災害は国庫負担法に基づくとくもので、起債を財源に復旧する市単独災害復旧事業により、日常の通行において緊急性の高い箇所から実施している。被災直後の道路等崩落土砂の撤去等既に実施している。災害廃棄物は収集所から順次収集・撤去運搬している。
市道の拡幅・改良について
太田の小柄・岡田線、関屋・和代線、戸沢の赤馬館・坂尻線、根柄線については、計画されていなかったが、今後、危険性や交通状況や整備の必要性等調査して参ります。
生活が保たれる養豚農家の豚コレラ予防策について
福島県は予防接種推奨地域とは設定されていない、予断

を許さない状況で、県と情報を共有を密に図り対応する。また、農場入口での立ち入り制限警告看板設置の指導をいたしました。
台風十九号被害の復旧状況について
一月末までに市道で、全七十箇所中六十九箇所公共災害復旧事業査定が終了し、今後実施設計中で終了すれば工事発注する、通行止め市道は三十一路線（二本松五・安達四・岩代一・東和一〇）また、農道四箇所や林道十四箇所十八箇所（二本松一〇・安達二・岩代一〇・東和五）通行止め区間は岩代三路線・東和五路線さらに、単独災害復旧工事は九〇〇箇所程度あり、一月末までに四一三箇所注しており今後も発注を続ける。家屋倒壊や水没による避難は十九世帯五十二名です。なお、河川災害復旧工事は災害査定終了して現在実施設計を行っており、今後緊急性と施工時期を踏まえ発注する。河川沿いの農地の堆積土砂と流木等は、農家の皆さん自ら施工できる「農地等小規模災害復旧事業補助金」の積極的な活用をお願いしている。
防火水槽の修繕について
羽山地区の防火水槽の修繕ですが平成十七年合併時から、市の「防火用水施設整備事業補助金」を活用して各行政区や自治会において、整備する事となります。



真誠会幹事長 佐藤有
文教福祉常任委員
安達地方広域議会議員
二本松市蓬田三七六
電話〇二四三二二二二一九七

問 本市の道路行政について
主要市道の歩道設置計画について、安達ヶ原・平石高田線の計画はあるのか。
当該路線は、国道四五九号の平石高田一丁目交差点から主要地方道原町・二本松線の安達ヶ原交差点を結ぶ一級市道で交通量も多い幹線市道であり、原線が通学路にもなっております。平石高田交差点から特別養護老人ホーム安達ヶ原あだたら荘入口までは歩道が設置されておりますが、そこから安達ヶ原交差点までは歩道がない状態であり、現時点では、歩道設置の計画は無い所であり、含め財政計画も十分考慮し検討してまいります。
危険箇所安全対策について安達ヶ原二丁目十字路付近の改良対策はあるのか。
市道島ノ内・安達ヶ原線及び市道安達ヶ原三丁目二号線が交わる交差点の安全対策であります。平石高田・安達ヶ原線を優先道路としており、島ノ内・安達ヶ原線及び三丁目二号線から見ると、止まれるの標識、カーブミラーの設置、更には、交差点内カラー舗装化、横断歩道の設置等安全対策を取っているところであり、阿武隈川築堤工事により嵩上げとなり通行する車両の確認がしにくい部分もあり、今後の歩道整備計画の中において、交通量、緊急性も実施し対応策を研究して参ります。
台風十九号の復旧状況について、安達ヶ原五丁目・六丁目・農地（水田）の復旧状況は、どのような支援策があるのか。
矢ノ戸地区の災害復旧は、どのような支援策があるのか。
安達ヶ原五丁目・六丁目については、特に土砂・稲わらの堆積による被害が大きい状況であることは認識をしております。基本的に、市内すべての皆さんに対し、自ら施工できる「農地等小規模災害復旧事業補助金」積極的な活用をお願いし、この補助金を活用することにより、今年の作付けに向けた農地の復旧が図れるものと考えています。

安達ヶ原谷地揚水の水路復旧について

公共性の高い用排水路や揚水ポンプなどの復旧につきましては、市の単独事業による修繕で対応しておりますが、当該修繕箇所については、修繕契約を締結しておりませんが、当該修繕箇所について、特殊製品が使われていることから、現在は材料の確保に努めるとともに今年度の作付に復旧完了する見込みです。

阿武隈川流域の河川改修を市として、国土交通省・福島河川国道事務所等の要望はできないものか。

阿武隈川上流改修促進期成同盟会として毎年要望活動を行っております。今年度も国土交通省福島河川国道事務所長・福島県土木部長及び県北建設事務所長に対し堤防の強化・樹木の伐採・河道掘削・点検・維持管理の強化、安達ヶ原・東地区の治水対策、油井地区における内水対策について、県管理一級河川では、弘川・安達太田川・小浜川・轟川の河川改修事業の促進及び、堆積土砂の撤去について要望した。また東北地方整備局・財務省・国土交通省に対しても同様の要望活動を行っている。

阿武隈川供中水門及び排水ポンプの維持管理について県河川事務所管理だが対応が後手になる状況にならないよう対策と要望について伺う。



真誠会 経理

坂本 和広

総務市民常任委員会 市議会だより編集委員会 二本松市本町一丁目三三二番 坂本マンション二二二号 電話〇二四三二二四一七八四四

災害対策について。

大規模災害時の職員配置体制と備蓄品詳細を伺う。地震でいえば、震度五弱以上で職員の半数が、震度六弱以上で全職員が登庁することとしており、備蓄品としてアルファート米と備蓄用クッキーを約二五〇〇食、水が五〇〇mlペットボトルで二五〇〇〇本、その他備蓄品を本庁舎・各支所・各住民センターに備蓄している。

ふるさと納税について

直近五年分ふるさと納税の当市受納額と、他市への納税額の収支差額を伺う。平成二十六年プラス六三三三万円、平成二十七年マイナス一四七三万円、平成二十八年マイナス二三〇八万円、平成二十九年マイナス三三三三三万円、平成三十年マイナス三〇一四万円となっております。

提案

ふるさと納税の返礼品として、当市でしか提供できないような体験型(ドリフトタクシー乗車券)の返礼品など、より魅力的な工夫をすべく。新型コロナウイルス対策について

質問

新型コロナウイルス対策について 市民の皆様は正確な情報提供を行うとともに、更なる予防策の徹底を広報して参りたい。

質問

災害発生時に避難所内における感染症対策としてマスク(三〇〇〇枚)や消毒液、感染防護服を備蓄している。マスクや消毒液に併せて、非常食においても災害時備蓄品の運用方針に柔軟性を持たせることを事前に検討しておくべきです。

二本松の菊人形について

入場者増加につながる施策を伺う。昨年は台風十九号の被害による影響もあり六万二千九百三人と入場者減となったが令和二年は早い時期からメディアやSNSを活用してPRしていきたい。

再生可能エネルギーの推進について

令和元年度の進捗状況を伺う。一〇〇〇mを超える太陽光発電所一基と営農併設型太陽光発電二か所を稼働開始致します。市民のお金とエネルギーの地産地消のため、迅速に進めて頂きたいです。



副議長

堀籠 新一

文教福祉常任委員会 二本松市杉沢字清ノ内一〇一 電話〇二四三二五七二七三七

市長の政治姿勢と市政運営について

市政運営上の課題は、それを解決するための手法と政治姿勢は。妊娠・出産支援、働く場の確保、救急医療体制、市街地の整備などいかに対応していくかが課題である。市民満足度の向上を図ることが重要であり「市民の誰もが元気で心豊かに暮らせるまち」の実現に向けて取り組みます。

二本松市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

現在までの取り組みの中での課題と、戦略の施策を絞り込み、成果を上げる取り組みは。課題として、出生数が減少していることと、生産年齢人口が減少し、地域社会と地域経済の担い手不足が深刻となっている。市三役と部長職での二次評価、有識者会議の二次評価を実施して、市として優先的に取り組むべき重点施策に集中的に予算を配分し成果を上げます。

質問

平成一〇一年四月一日で限界集落は、十八行政区で、限界集落は二〇二行政区である。各地域に集落支援員を配置して、集落の現状把握と課題の洗い出しを実施している。

質問

本市の財政運営について

本市の財政の現状と健全な財政運営の方針は。「令和二年度一般会計当初予算」の歳入予算における自主財源の割合は二九・四％となっており、国・県からの補助金や交付金等の財源が大きな割合を占めている状況であり、市税等の自主財源を確保していくのが大きな課題である。当初予算編成における繰入金については、原発事故による行政損害賠償についても質問しました。

質問

地域医療体制の充実について

厚生労働省の二本松病院の再編・統合の公表による、本市の考えと対応策は。二本松病院は地域医療の要であり、救急医療の維持も含めて、市のみならず安達管内としても必要な医療機関であり、人工透析、健診、人間ドック、産後ケア、地域包括支援センター等を実施していただいております。地元自治体として必要性を訴え、引き続き地域医療に貢献していただければ幸いです。

クフクシマ」の登録や専門誌への広告掲載による医師募集など引き続き医師確保対策に取り組みます。

肥満と視力の状況は。本市の子どもの肥満と視力の状況は。肥満については小学生で二年生、五年生、六年生、中学校では全学年で県の平均値を上回っており、視力については視力一・〇未満の児童生徒については、小学生で福島県が三六・五％本市が三九・〇％、中学生では、福島県が六二・八％本市が六三・〇％です。

会派活動

新時代到来！ 地方はどう生き残るか 令和元年五月九日と十日の二日間には、東京明治大学アカデミーホールに於いて日本自治創造学会研修大会が開催されました。真誠会所属議員が参加、研修してまいりました。主な講演内容は、自治体の自立を必要とする社会環境の変化や、行政と議会の役割、元気で魅力的な自治体の再生など、真の地方創生・魅力高輪化を切り切る取り組みなど多岐にわたり充実した講演と研修でありました。



パークゴルフ場整備状況視察 平成三十一年度予算においてパークゴルフ場整備事業についての調査費予算が計上されましたが、現在田沢地区の日山パークゴルフ場(十八ホール)がありませんが、市民よりもう少し利便性の良い場所に設置できないものかと要望もありました。健康増進、更には若者から高齢者に至るまで、気軽に楽しめるスポーツとして利用増も見込まれ、スカイピアあだたらの敷地が候補地があつたが、場所も含め、まだ検討の余地があり、通常利用のできる場所と再検討するなど、利用者の意見をふまえた十分な調査を進めるべき真誠会では、他地域に行政視察をしてまいりました。



視察にあたっては、以下の項目について十分な調査と意見交換をしてまいりました。一、設置までの過程、二、整備立地選定の経過、三、造成建設費、四、年間の維持管理費、五、年間の利用状況などを重点的に調査、意見交換してまいりました。

視察地

- 一、福島市パークゴルフ場 四コース三十六ホール
- 二、南相馬市パークゴルフ場 六コース五十四ホール
- 三、相馬市光陽パークゴルフ場 九コース八十一ホール
- 四、角田市パークゴルフ場 三コース二十七ホール
- 五、伊達市梁川パークゴルフ場 一コース十八ホール

以上五施設の整備状況について視察してまいりましたが、すべての施設が公認コースであり通常営業され利用頻度も高く常に二、三十人のプレーヤーがあり本市からも行ってプレーされています。

プレーヤー間の交流もあり、アクセス面でも幹線沿いとか観光も含め一日楽しくプレーできる場所を選定し設置したいものです。

令和2年度一般会計予算主な概要

令和2年度当初予算総額344億4359万7千円として、歳入歳出それぞれにおいて新総合計画の4つの基本目標達成に向けて事業を積極的に推進する。東日本大震災及び原子力災害からの復旧・復興に係る施策を引き続き進めるとともに、国、県の施策や経済対策・財政措置等の動向に注視しながら編成されております。

新総合計画の4つの基本目標の主な予算

子供や若者の未来を創るまち

- ・民間が運営する学童保育所の定員拡大に伴う施設改修費に対する助成 5,525千円
- ・民間が新たに整備する保育施設及び認定こども園の整備費に対する助成 223,873千円
- ・定住促進住宅取得奨励金の支給等人口減少対策事業 30,200千円
- ・出産祝金支給事業 15,220千円
- ・二本松駅南地区整備事業 298,638千円
- ・杉田駅周辺整備事業 74,217千円
- ・安達駅西地区整備事業 94,201千円
- ・学力向上対策として非常勤講師を配置する経費 28,800千円

郷土愛にあふれ活力と賑わいのあるまち

- ・園芸施設整備に係る産地パワーアップ事業として、機械設備導入に対する助成 85,450千円
- ・肉用牛改良の効率化等のための繁殖雌牛ゲノム育種評価に対する助成 1,440千円
- ・県産木材利活用推進のため、県産木材を活用し整備する施設の建設費に対する助成 9,657千円
- ・市民との協働による地域づくり推進事業 40,000千円
- ・地域担い手育成総合支援事業 20,120千円
- ・繁盛店づくり支援事業補助及び創業支援空き店舗等活用事業補助 21,400千円
- ・DMO推進事業 26,870千円
- ・温泉地観光施設整備事業 151,544千円
- ・二本松城跡総合整備事業 956,038千円
- ・二本松城三ノ丸御殿復元資料調査等業務 13,000千円

いつまでも元気で生きがいのもてるまち

- ・温泉等利用健康増進事業 33,588千円
- ・生活習慣病予防事業 120,442千円
- ・ロタウイルスの定期接種追加及び風しんの追加対策費を含めた予防接種事業 212,404千円
- ・安達公民館大規模改造・耐震改修事業 77,872千円
- ・芝生広場整備事業 147,712千円

助け合い、支え合い安全に安心して暮らせるまち

- ・就労準備支援事業 8,000千円
- ・移動系防災行政無線のデジタル化整備費 38,404千円
- ・障がい者相談支援事業 23,117千円
- ・高齢者公共交通運賃無料化事業 12,260千円
- ・生活用水確保対策事業 28,124千円
- ・積込場への移送や仮置場の撤去等の放射能除染事業 2,631,887千円
- ・放射性物質の吸収抑制対策等を行う農業原発事故対策事業 168,997千円
- ・ため池等放射性物質対策事業 1,155,000千円
- ・ふくしま森林再生事業 100,000千円
- ・道路等側溝堆積物撤去事業 160,000千円



編集後記

平成から令和に御代替り何か清々しい気分になった昨年でありましたが、夏は暑く、秋は短時間集中豪雨の大災害、冬は少雪でスキー場も滑れない近年まれに見る異常の気象状況がありました。原因は地球温暖化現象と考えられますが、二酸化炭素の発生を抑える事により抑制されます。本市でも、再生可

能エネルギーを推進、自然界に常に存在する太陽光エネルギー利用のご当地エネルギーゴチカン一号機が稼働いたしました。暮らしの中で資源やエネルギーの量が少ない環境に優しい物を使用するなど生活の中で温室効果ガスを減らすことに心掛けたと思います。